

学会記事

【第18回総会】(2025年6月29日, 筑波大学東京キャンパス134講義室 出席者46名)

呉羽正昭庶務委員長の開会の辞のあと, 丸山浩明会長より挨拶があった。その後, 池庄司規江評議員を(茨城大)議長に選任した。議長より佐藤大輔庶務委員に書記を委嘱し, 議事を開始した。

1. 2024年度会務報告について(2024年4月1日～2025年3月31日)

松井圭介常任委員長より, 会員総数(2024年6月5日現在, 387名), 第17回大会(2024年6月29日)の開催(筑波大学春日エリア, 参加者71名), 機関誌「地理空間」の刊行(第17巻1～3号, 特別寄稿1編, リサーチペーパー4編, 地理資料2編, 書評, 学会記事等を掲載), 地理空間掲載論文のJ-STAGE登載, 若手研究者への助成, ニュースレターの発行(第38号(2024年6月), ホームページ・メーリングリスト(jags-ml)の運営, 日本学術会議協力学術研究団体(2013年9月24日から), 2025年度学会賞選考結果について報告があった。

[地理空間学会学会賞]

＜学術賞＞：伊藤徹哉

受賞対象：伊藤徹哉『転換期におけるヨーロッパの都市再生—持続可能な都市空間—』古今書院, 2024.10月.

＜奨励賞＞：岩井優祈

受賞対象：

Iwai, Y., Geo-phenomenology: A qualitative and humanistic GIS approach to exploring lived experience. *The Professional Geographer*, **76** (5): 607-619, 2024.

Iwai, Y., Joint effects of perceived hazard risk and contextual situation on responses. *Annals of the American Association of Geographers*, **114** (5): 1039-1057, 2024.

Iwai, Y. and Murayama, Y., Sustainability of Science City Tsukuba: From the viewpoint of cognitive-cultural capitalism. *Cities*, **142**, 104522, 2023.

＜奨励賞＞：川添 航

受賞対象：

Kawazoe, W. Significance and Roles of Religious Facilities for Japanese Migrants: A Case Study of Christian Churches in the Republic of Korea. *Geographical Review of Japan Series B*, **97** (1), 16-41, 2024.

川添 航「国際移住者の宗教活動に関する地理学的研究の展開—1990年代以降の英語圏における研究動向を中心に—」地理空間, 16(1), 1-19, 2023.

2. 2024年度決算報告・監査報告について

山下亜紀郎会計委員長より2024年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され、その収支について山下清海会計監査、村山祐司会計監査より適正であると承認したことが報告された（別紙「会計監査報告書」参照）。2024年度決算案は異議なく承認された。

3. 2025年度事業計画案について

松井圭介常任委員長より2025年事業計画について、機関誌「地理空間」第18巻1号（2025.6.20）、第18巻2号（2025.12.20）、第18巻3号（2026.3.31）の刊行、第18回大会の開催（2025年6月 筑波大学東京キャンパス）、第19回大会の開催計画（2026年場所未定）、例会の開催、巡検の開催、学会賞や若手研究者助成による研究奨励、ニューズレターの発行（発表要旨特別号の発行を含む）、ホームページ、メーリングリストの管理・運営が提案された。2025年度事業計画案は異議なく承認された。

4. 2025年度予算案について

山下亜紀郎会計委員長より、2025年度予算案について、予算表の修正も含めて説明がなされた。2025年度予算案については異議なく承認された。学会費納入率、退会者と退会規定について質疑応答があり、常任委員会で今後検討することとされた。

5. J-STAGE 即時オープンアクセス方針への対応について

堤 純編集委員長より説明があり、J-Stage に掲載する地理空間の論文は、まず HP 上にて要旨を公開し、次号が刊行された段階で、J-Stage 上に半年遅れで公開する方針をとってきた。しかしながら、2024年2月に内閣府統合イノベーション戦略推進会議による決定で、競争的資金を獲得して書かれた論文に関しては即時公開が原則となった。2025年に獲得した予算から公開の対象になるため、速やかに公開する旨の報告があった。最新号の閲読に関する会員特典の廃止が、会員数の減少もしくは会員数獲得に影響するのかどうかについては今後の検討課題とすることとなった。

6. 役員・専門委員会の構成について

松井圭介常任委員長より役員および専門委員会（2024～2025年度役員（2024年7月1日～2026年6月30日））構成員の一部変更について説明があり、異議なく承認された。

2024～2025年度役員（2024年7月1日～2026年6月30日）下線は新規

会 長：丸山浩明（立教大）

会計監査：村山祐司（筑波大名誉）、山下清海（筑波大名誉）

常任委員：松井圭介（常任委員長、筑波大）、呉羽正昭（庶務委員長、筑波大）、山下亜紀郎（会計委員長、筑波大）、森本健弘（集会委員長、筑波大）、堤 純（編集委員長、筑波大）

評 議 員：秋山千亜紀（麗澤大）、池庄司規江（茨城大）、池田真利子（筑波大）、伊藤徹哉（立正大）、岡村治（立正大）、兼子 純（愛媛大）、川瀬正樹（広島修道大）、木村昌司（茗溪学園）、久保倫子（筑

波大), 呉羽正昭(筑波大), 駒木伸比古(愛知大), 篠原秀一(秋田大), 清水克志(筑波大), 杉本興運(東洋大), 須山 聡(駒澤大), 堤 純(筑波大), 杜 国慶(立教大), 中西僚太郎(筑波大), 中村理恵(高崎女子高), 仁平尊明(東京都立大), 林 琢也(北海道大), 平井 誠(神奈川大), 福本 拓(南山大), 藤永 豪(西南学院大), 松井圭介(筑波大), 三木一彦(文教大), 三橋浩志(福井県立大), 森本健弘(筑波大), 山下亜紀郎(筑波大), 山下宗利(佐賀大), 吉田道代(和歌山大), 若本啓子(宇都宮大) 32名

<専門委員会>

庶務委員会: 呉羽正昭(委員長), 秋山千亜紀(副委員長), 黒澤俊平, 佐藤大輔, 鈴木修斗, 中川紗智, 吉沢 直

会計委員会: 山下亜紀郎(委員長), 久保倫子(副委員長), 薄井 晴

集会委員会: 森本健弘(委員長), 五十嵐純護, 大沼勇斗, 川添 航, 坂本優紀, 佐野浩彬, Mao Yaqian, 矢ヶ崎太洋, 劉 逸飛, CHA JINHYUK

編集委員会: 堤 純(委員長), 須山 聡(副委員長), 橋本暁子(副委員長), 飯塚 遼, 井口 梓, 石井久生, 伊藤徹哉, 大石貴之, 片岡博美, 久木元美琴, 小島大輔, 佐藤大祐, 田中耕市, 淡野寧彦, 仁平尊明, 橋本 操, 林 琢也, 平井 誠, 福本 拓, 藤田和史, 山本健太, 吉田道代
(書記): 鹿嶋 航

学会賞選考委員会: (※2025年7月1日~2026年6月30日, 1年間)

岩間信之(委員長), 中村周作, 仁平尊明, 横山 智

7. その他

とくになし。

以上で議事を終了し, 池庄司議長による書記と議長の解任が行われた後, 呉羽庶務委員長の閉会の辞をもって, 総会は終了した。

【大会報告】

第18回大会(2025年6月29日, 筑波大学東京キャンパス134講義室 出席者46名)

・一般発表

(*は共同発表の登壇者)

Mao Yaqian(筑波大・博士特別研究員): 欧米と東アジアにおける時間地理学研究の比較文献レビュー: 理論・実践・今後の課題

鈴木修斗(東海大): デジタルノマドの「自由」な移動とプラットフォームによる空間的「束縛」—インドネシア・バリ島におけるデジタルノマド集積地区を対象として—

廣部恒忠(明海大): 東京都における都市小売商業の特性に関する一考察 —経済地理的な特徴など—

岩井優祈(東京大) *・村山祐司(筑波大・名誉): 伊能忠敬の東日本および中部日本遠征(1800-1803年)

における測量活動の時空間的パターン

高橋昂輝（北海道大）・矢ヶ崎典隆*（東京学芸大・名誉）：アメリカの捕鯨とポルトガル系ディアスポラ
—19世紀の人口移動と現代のエスニック社会に関する若干の考察—

・会長講演

丸山浩明（立教大）：在米邦人の排日体験と南米進出—植民思想の涵養と挫折—

・ポスター発表

小林和瑚（筑波大・院）：谷川岳におけるエコツアーと環境学習・学校旅行からみたエコツーリズムの課題

坂本大知（筑波大・院）：岩手県盛岡市における林野火災地の森林管理と復旧プロセス

中向井亮（筑波大・院）：東京都中野区におけるゲイ男性の居住と場所イメージ

SONG ZEJIANG（筑波大・院）：NDVI 時系列法に基づく耕作放棄地抽出に関する研究—茨城県石岡市を例にとりて—

和田真宙（筑波大・院）：斜面都市の形成過程と現在の居住実態—福岡県北九州市八幡東区を事例に—

石原叶大（筑波大・院）：町並み保存運動における住民と行政の役割—名古屋市中区有松を事例に—

黄新翌（筑波大・院）：全国市町村の環境・社会特性に基づく都市の持続可能性評価—ランダムフォレストを用いた要因抽出—

【地理空間学会会則】

地理空間学会ホームページをご参照ください。

URL：http://jags.ne.jp/

【編集委員会からのお知らせ】

2025年4月～2025年10月：未受理原稿および左記期間に投稿された2本の原稿について閲読結果をもとに検討した結果、地理資料1編を受理した。

【編集委員会からの J-Stage 公開のお知らせ】

機関誌『地理空間』の Web 上での公開方法が変更になりました。「論説」や「リサーチ・ペーパー」などの論文はすべて J-Stage 上（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jags/-char/ja>）で公開することになりました。なお、次号の掲載までの「最新号」については、各論文の要旨のみ地理空間学会ホームページ上（<http://jags.ne.jp/>）で公開し、最新号の刊行と同時に、前号の全文を J-Stage 上で公開いたします。なお、書評や学会記事、例会要旨などについては、引き続き、本学会ホームページ上でのみ公開いたします。

【次号以降の投稿について】

第19巻1号は、2026年6月20日の発行を予定しております。第19巻1号の原稿については随時受け付け

ておりますが、第19巻1号に掲載されるには、2026年3月末までに受理が出ている必要があります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員皆様の活発な寄稿をお待ちしております。

本学会の活動を幅広く認知してもらうために、会員の皆様の大学研究室や大学・高校の図書館におきまして、会誌『地理空間』の定期購読を是非ご検討のほどお願いいたします。ご購入いただける場合には、編集委員会 (geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp) までお知らせください。

【オンライン版（電子版）の3号の刊行について】

2016年度総会において、現行の年2号の紙媒体での印刷・発行に加え、オンライン版（電子版）の3号（年度末発行）を新たに発行することが決まり、すでに9巻3号（2017年3月）、10巻3号（2018年3月）、11巻3号（2019年3月）、12巻3号（2020年3月）、13巻3号（2021年3月）、14巻3号（2022年3月）、15巻3号（2023年3月）、16巻3号（2024年3月）、17巻3号（2025年3月）を刊行しました (<https://jags.ne.jp/archives/2201>)。オンライン版（電子版）の3号の概要は以下の通りです。

- ・シンポジウム報告を含む特集論文は、各巻3号に掲載する。
- ・特集論文の企画代表者は学会員に限る。ただし、各論文の著者については、会員か非会員かは問わない。
- ・特集論文の企画は、毎年度9月末日までに企画代表者が事務局（編集委員会）へ申し出る。
- ・企画代表者は、編集委員会にゲストエディターとして加わり、当該特集論文の査読・編集に携わる。
- ・特集論文の掲載・発行にかかる実費相当額（校正費用とPDF作成費を合わせた1ページ当たりの実費：約4,000～5,000円）は、企画代表者（または論文の著者）が負担する。
- ・各巻3号は、発行後速やかにJ-Stage上 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jags/-char/ja>) で公開する。紙媒体の1、2号は、これまで発行から半年後に学会HPで公開していたが、これを変更し次号発行時に学会HPで公開する。すなわち、各巻1号は2号発行時、2号は3号発行時に学会HPで公開する。
- ・3号の印刷物（有償）を希望する会員は、個別に事務局へ相談する。

【投稿規程 & 執筆要項】

地理空間学会ホームページをご参照ください。

URL : <http://jags.ne.jp/>

【新入会員】（2025年6月6日～2025年11月13日）

有田英樹（株式会社パスコ）

柴岡 晶（筑波大・院）

嶋田 翔（筑波大・院）

山内美佐子（筑波大・院）

（会員数：391名、2025年11月13日現在）